

主 題

**基礎的な学習の充実を図り、幼稚園、小学校における
教育の連携をめざす教育課程及び指導方法の研究開発**

**岡山大学教育学部附属小学校
岡山大学教育学部附属幼稚園**

発表者 安東 信哉 (附属小 研究主任)

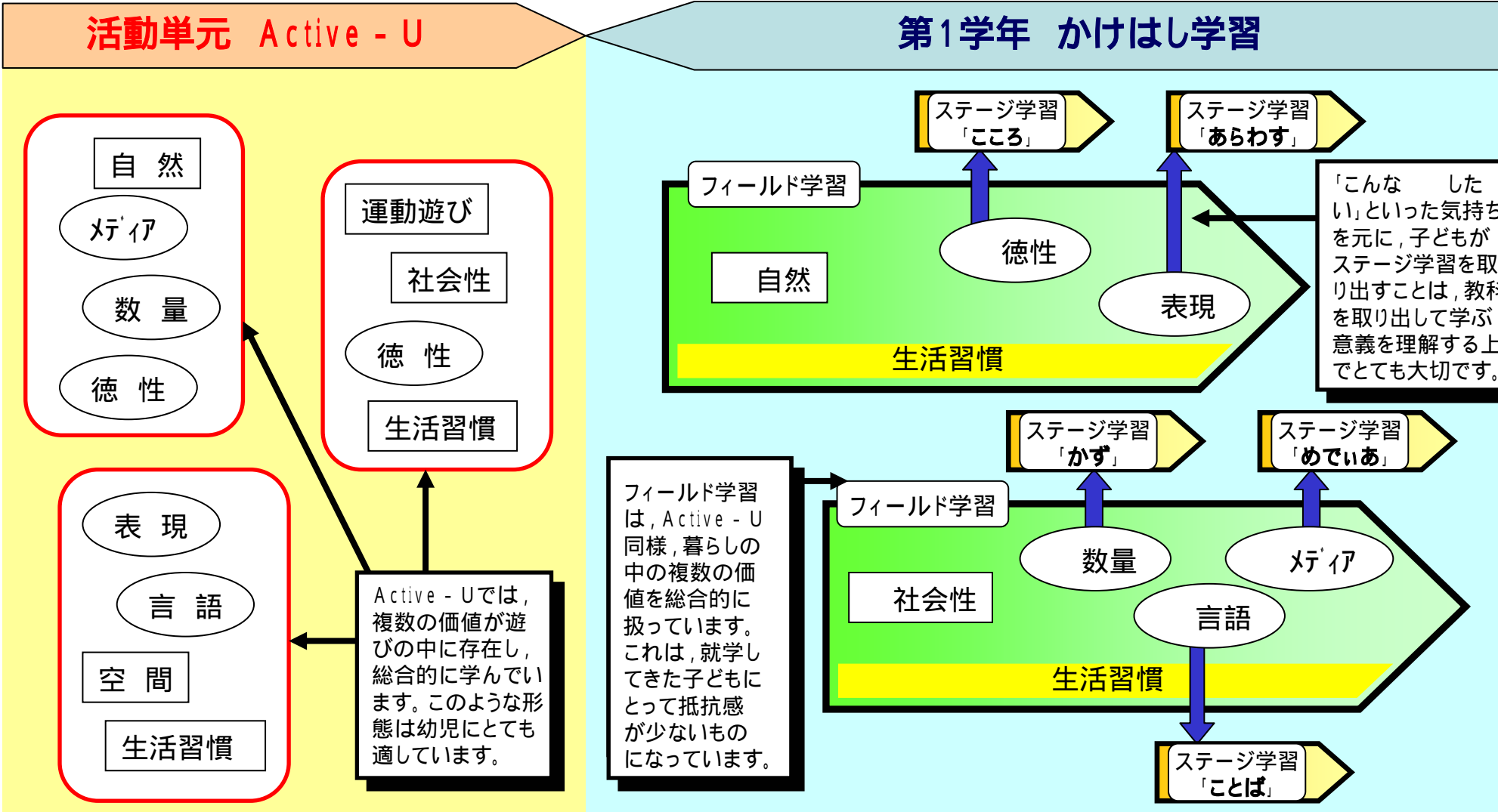
幼小連携カリキュラム 構成の視点

<p>発達段階</p>	<p>期 3歳児</p>	<p>期 4歳児～ 5歳児前半</p>	<p>期 5歳児後半 ～1年生</p>	<p>期 2年生 ～4年生</p>	<p>期 5年生 ～6年生</p>
<p>3歳から12歳まで、それぞれの時期の子どもに最適な形で教育していく必要があります。そのために、発達心理学の文献や専門家からの意見を元に、5つの期を設定しました。</p>					
<p>豊かな 学びの姿 (発達課題)</p>					
<p>遊びや授業に取り組む中で、子どもは「他者」「対象」「自己」との望ましい関わり方を身につけていきます。そしてその姿は、発達段階に沿って高まっていきます。これを3歳から12歳まで、保育と授業の中で段階的に発展する「学び」のあり方として描きました。これは、遊びと授業を一貫した「学び」と見る、幼小共通のめざす子ども像となりました。</p>					
<p>学ぶ内容</p>	<p>9つの要素</p>		<p>10の 価値</p>	<p>各教科等で 培いたいもの</p>	
<p>保育や授業において培いたい内容を明らかにし、発達段階に沿って順序立てて配列し、それらがどのようにつながっているのか、一つ一つ検証していきました。それは、どの保育がどの教科学習の原体験になっているのか、はっきりさせました。そして、どのような事物現象に対しても興味関心を持ち、しかも無理なく身に付くよう計画することができるようになりました。</p>					
<p>教科構成</p>	<p>Active - U</p>		<p>かけはし 学習</p>	<p>かけはし学習 から 分化した教科等</p>	
<p>なぜ教科の学習を受けなければならないのか。その意味が子どもにとってわかりやすい時、子どもは意欲的に学習に取り組みます。そのためには、「子ども自身が、暮らしや授業の中から教科を生み出す体験をする」ことです。これを「分化体験」と呼び、その体験から教科の枠組みを再構成しています。その結果、従来以上に教科学習への意欲が高まっています。</p>					

幼稚園のActive - Uと小学校1年生の「かけはし学習」の接続イメージ

暮らしの中に存在する様々な価値を「遊び」の中で総合的に学ぶ幼稚園の活動単位Active - U。
 かけはし学習は、このような学びをフィールド学習として受け継ぎながら、そこから焦点化した価値を学ぶ場としてのステージ学習を取り出す「分化体験」を行う構造をもっています。

期(5歳児後半～第1学年)



フィールドを構成する価値

フィールドの中に入っている価値

フィールドの中にいつも入っている価値

9月

虫さんとお友だち になろう

価値「自然」(フィールド)
価値「言語」「メディア」「数量」
「徳性」「表現」(ステージ)

幼稚園との 指導内容の つながり

期(3歳)

虫探しをしたり、種取りをしたり、草花を使って遊んだりするおもしろさに気づく。

期(4歳～5歳前半)

初夏の小動物を探したり見たり触ったり世話をしたりすることのおもしろさに気づく。

期(5歳後半～1年)

虫を探したり世話をしたりしながら、虫の形、色、動き、食べ物の違いなど虫の特徴をおもしろいこととして感じ取る。

この時期の 子どもの 様子

期

(第1学年
9月中旬から10月末)

秋が近づき増えてくる虫に目が向きはじめる。

家や学校のまわりで見つけた虫について話題にしている。

捕まえた虫を学校にもってきて見せている。

友だちが連れてきた虫に興味深く見ている。

こういった暮らしの中で、自分も虫を見つかけたり、捕まえたりしたいという思いをもってくる。

ステージ学習「かず」

「大きな数～20を超える数～」

ゲームの中で大小の比較、合成・分解をして遊ぶ。

捕まえた虫の数を数えるときに、20を越えた数の大小を比べることがおもしろくなった頃に。

ステージ学習「ことば」

「広がれ！音を表す便利なことば」
音の様子を表す言葉を
集め選んで使う。

自分の虫のお話をする際、鳴き声をくわしく伝えられることばで紹介するとおもしろいと思った時に。

ステージ学習「こころ」

「動植物に優しくしよう」
動作化の中で、元気をなくした動物の
気持ちを考える。

十分お世話ができていなくて弱らせてしまい、きちんとお世話しないと哀想だという気持ちを持った時。

フィールド学習「虫を探そう」

友だちに虫を見つけた場所を尋ねる、虫がいそうな場所を伝える、友だちと声をかけ合って捕まえる、網や虫かごを交代で使うなどしながら一緒に活動する。(他者との対話)
草むら、木、葉の下など虫がいそうな場所を探したり捕まえ方を変えたりして、虫の住んでいる所や虫の動き、体の硬さなどの特徴を不思議さ・おもしろさとして感じ取る。(対象との対話)
捕まえた虫を見せながら見つけたことや捕まえたことをうれしそうに話したり虫の種類や数を自慢したりする。(自己との対話)

フィールド学習「虫さんの世話をしよう」

友だちが虫をつかんでいるのを見てつかみ方をまねる、友だちが与えている、えさを尋ねる、与えるえさの種類を伝える、友だちと誘い合っってえさを採りにいく、虫のすみかを友だちと作る、などしながら一緒に活動する。(他者との対話)
つかみ方を変えたり、容器に入れる虫の数や土、草の量を変えたり、虫に合ったえさを集めて与えたりして、虫の体や好きな食べ物、適したすみかなどの特徴を不思議さ・おもしろさとして感じ取る。(対象との対話)
虫がつかめるようになったことをうれしそうに話す。出来上がったすみかで虫が遊んでいることやえさをたくさん食べてくれたことをうれしそうに自慢する。(自己との対話)

虫の写真を撮っているうちに、もっと他のものも写してみたいと思った時に。

ステージ学習「めであ」

「デジタルカメラを使っちゃおう」
写すものや場所を選んで写す。

自分の虫のお話をする際、動く様子をくわしく伝えられることばで紹介するとおもしろいと思った時に。

ステージ学習「ことば」

「広がれ！動きを表す便利なことば」
動きを表す言葉を
集め選んで使う。

飼っている虫の動きや鳴き声のまねをして遊んだ後で、もっと他の生き物のまねもしたいと思った時に。

ステージ学習「あらかず」

「あつまれ いろんな動物たち」
動物の仕草、鳴き声、動物ごっこなどをして遊ぶ。

本単元で 培いたい 内容

価値「自然」
また道具を変えて捕まえたり、虫に合わせて餌やすみかを与えたりしてみたいという興味・関心をもつ。

価値「言語」
また動きや音など様子を表すことばを探して使ってみたいという興味・関心をもつ。

価値「メディア」
またカメラを使って写してみたいという興味関心を持つ。

価値「数量」
また大きな数を数えたり比べたりするゲームがしてみたいという興味・関心をもつ。

価値「徳性」
また生き物にやさしくすることに考えて取り組んでみたいという興味・関心をもつ。

価値「表現」
また動きや鳴き声をまねて遊びたいという興味・関心をもつ。

4つの視点からの幼小連携の成果

発達段階

子どもの発達に沿って「豊かな学び」、「学ぶ内容」、そして「教科構成」を決めることができたようになった。これは、子どもにとって無理が無く、しかもそれぞれの時期の子どもにとって適当な学び方で、適当な内容を、適当な形態で学ぶことを考える本研究の「時間のものさし」として機能した。小学校教育の枠の中だけでなく、幼児期からの教育との連続性や、それぞれの期の子どもの特徴を意識するようになったのも 発達段階のおかげである。

学校種間連携研究には必須の要件と考える。

学ぶ内容

幼での遊びの中で培われている様々な興味・関心や子どもの気づきが、小以降の教科等の学習の基礎になっていることを改めて示すことができた。5領域50項目をまとめなおしたものと見た時、9の要素10の価値は単純にその項目数が少ないため、指導計画の中への位置づけが考えやすくなり、どの内容についても指導が行いやすくなった。結果、実効性が高まった。幼小間の内容のつながりを意識すると、保育や授業の中での声のかけ方一つ、環境の工夫の仕方一つが変わってくることも実感している。

この教育課程になってからの本校の子どもの姿

- ・「ねえねえ、こんな勉強もできるんじゃない?!」「おもしろい!いっしょにしようよ!」
- ・「2年生になってもいっぱい勉強したいな!ことばを勉強する時間を毎日したい!」
- ・「どんなお勉強でも大好きだよ。数えるのもつくるのも走るのも…」 など

豊かな 学びの姿 (発達課題)

子どもの学びを考えると、単なる知識や技能などの習得といった学び観から脱却し、「私」を取り囲むさまざまなものととの適切な関係性を身につけるといった、生涯学び続ける上で必須の学びを身につけさせることができるようになった。発達段階毎に描いた豊かな学びの姿であるところの「発達課題」は、幼においても「学び」を定義するとともに、幼小の教員が子どもの成長を見る共通の視点となった。「発達課題」をねらいに保育や授業を行うことで、幼小一貫した学びを無理なく育てることが可能になった。

教科構成

かけはし学習は、暮らしの中から持つことができる課題意識を元に追求していく点、複数の価値についての体験が同時に関連して行われる点など、幼での総合的な学びである「遊び」の理念を踏襲することで、就学してきた子どもの授業への抵抗感を大幅に軽減することができた。さらに、「こんな もしたいなあ」といった焦点化した学習であるステージ学習を取り出す「分化体験」を年間繰り返すことによって、2年生に進級する頃には、「ことばの勉強する時間がいつもほしいなあ。」「かずのお勉強をする時間っておもしろいから毎日したいなあ。」と、どの子どももいうようになるなど、教科等の学習への興味・関心が極めて高くなることがわかった。また、教科等の学習への積極性や課題意識を持って学習を新たに生み出そうとする傾向は2年生、3年生となっても持続する傾向が感じられている。かけはし学習を行う前の年度に標準学力テストを行っており、そのデータと現在の子どもの比較すると、偏差値において差がないこともわかっている。既存の教科等の中での指導を行っているわけではないが、狭い意味での学力についての不安は杞憂であることがわかる。

発達段階のよりどころは？ その1

3歳から12歳まで、それぞれの時期の子どもに最適な形で教育していく必要があります。そのために、5つの期を設定しました。発達段階の区分を行うにあたっては、発達心理学の文献や専門家からの意見を元に行いました。まずはじめに手がけたのは、自己認識、他者認識、思考、身体的発達など、さまざまな研究者の文献を比較・検討したことです。右表A-1のように、精神機能、精神構造、身体機能など、研究者によって子どもの発達を見る視点は異なるものの、ある時期において発達の区切りに重なりが見られることがわかりました。このことから、下表A-2のような発達段階をおくことになったのです。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12(歳)	
Buss													社会的(公的)自己がほぼ確立する	
Bannister													推論, 統合的な概念化	
Nicholls													他者認知を受け入れる	
Selman				未分化・自己中心的視点				分化・主観的視点					自己内省的, 相互的視点	第三者的, 相互的視点
牛島義友							空想生活時代			知的生活時代				
Buehler							主観から客観へ			客観から主観へ				
Piaget					前操作期					具体的操作期			形式的操作期	
Bruner					行為的表象					映像的表象			象徴的表象	
Vygotsky					遊技活動期					学習活動期			社会的コミュニケーション活動期	
Stratz					第1伸長期					第2充実期				

表A - 1 参考にした学説や研究報告

期	期	期	期	期
3歳児	4歳児～ 5歳児前半	5歳児後半～ 1年生	2年生～4年生	5年生～6年生

表A - 2 本校園で測定した 発達段階

発達段階のよりどころは？その2

わたしたちは当初、期と期の境界を5歳児と1年生の間、つまり、小学校入学前と入学後の境においていました。しかし、子どもたちの実態をよく見ていくと、幼稚園の5歳児の姿が、小学校の1年生の姿とよく似ているのではないかと考えるようになりました。

附属幼稚園では、平成12年度から幼稚園教育要領の内容50項目を視点とした子どもの評価とその分析を行っていました。平成14年度、その結果を集約することで、やはり、5歳児の夏以降頃から子どもの姿が大きく変わっていることを導き出していました。

このことから、わたしたちは、発達の傾向としての発達段階の区分を見直すことにしました。つまり、期の始まりを、これまでの小学校入学時から変更し、5歳後半とすることとしました。

実際に子どもの様子を観察していると、5歳児の夏以降、認識の深さ、友だち関係、自尊感情などが、急速に高まっていることがわかりました。

もちろん、急に難しいことをさせるべきだということではなく、子どもの高まりに応じて適切な指導を行うべきであることはいうまでもありません。

(補助資料 を参照してください。)

< 調査「幼稚園教育要領の内容50項目」を視点とした子どもの評価とその分析 >

目的

幼稚園教育要領の指導事項としての「内容」が、実際の子どもの発達に適しているか、またその指導の時期が適正であるかということを見極めるために本園の3歳児から附属小学校1年生の子どもに「幼稚園教育要領の内容50項目」が、どのような順序で身に付いているのかを把握する。

対象

対象児は、平成12年度～14年度までの3年間在園する3年保育の3学級から各9名ずつを抽出する。その際、生まれ月を考慮し、各学級の中を、後半生まれ群、中頃生まれ群、前半生まれ群に分け、それぞれの群から3名ずつを抽出した。

方法

「幼稚園教育要領の内容50項目」を視点として、担任の教師が対象児一人一人について評価する。必要に応じて、他の教師の参考意見も取り入れる。評価は、内容50項目の各項目に対して、「できない」「できたりできなかったりする」「できる」の3段階評価で行う。さらに、この一人一人の評価を各学級ごとに取りまとめるために、それぞれの時期(5月、7月、9月、11月、1月)で、各学級の対象児9名のうち5名以上「できない」なら×、「できたりできなかったりする」なら○、「できる」なら△、どれも5名以上にならない場合は、空欄とする。実施期間は、平成12年度から継続しており、12年度、13年度とも1学期から3学期にわたる5月、7月、9月、11月、1月、3月、14年度に関しては、5月、7月、9月、11月に実施した。ただし、附属小学校への進級児の6歳については、13年度、14年度の7月、11月に、附属小学校の担任教師が評価した。

結果

この結果を各年度でクラスごとにまとめたものが、発達評価表である。平成12年度3年保育3歳児の評価結果は発達評価表1、同じく4歳児は発達評価表2、同じく5歳児は発達評価表3に示す。さらに、この発達評価表の50の各項目を見たときに、(できたりできなかったりする)が最初に出た月から、(できる)が最初に出た月までを矢印で結んだものを「時期割り振り表」とした。12年度の結果から作成したものが「第1年次時期割り振り表」(表4)である。

考察

時期割り振り表の のある時期は、できたりできなかったりする状態が続いている時期であり、その項目についての指導をおこなうことが有効であると考え、指導が必要な時期とらえた。このことから、その時期に必要な指導内容を明確にすることができた。これは、Active-Uにおいて、どのような指導内容をどのような時期に扱うかについて確信をもって示していくことができた。

さらに注目すべきは、3年保育5歳児(表4-3)は、「幼稚園教育要領の内容50項目」の内容が、5月、おそくとも9月頃にはほぼ達成できることがわかった。このことから、5歳児の夏以降頃からさらに一步踏み込んだ内容について保育していくことができるという確信をもつことができた。期(3歳児)・期(4歳児～5歳児前半)と期(5歳児後半～)とで、触れさせる内容面の質を高めていけることがわかった。

これら「幼稚園教育要領の内容50項目」による子どもの実態調査の結果や私たち教師の願いなどから、子どもたちに身につけさせたい資質や能力を、より具体的な指導内容として明確に示すために9つの要素と10の価値を導き出した。

表2. 対象児の「幼稚園教育要領の内容50項目」の発達評価表2

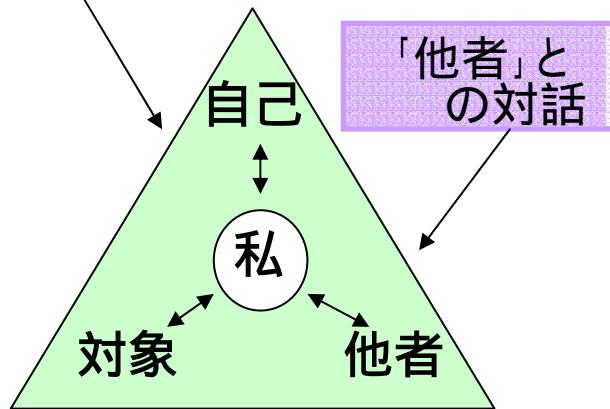
幼稚園教育要領内容50項目	4歳 →				5歳 →				6歳 →					
	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	7月	11月
(1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(3) 進んで戸外で遊ぶ	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り込む	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(5) 健康な生活のリズムを身に付ける	△	○	△	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(6) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(7) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(8) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を選んで行う	△	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(9) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(11) 自分で考え、自分で行動する	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(12) 自分でできることは自分でする	△	△	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○
(20) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	△	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(23) 友達と積極的にかかわりながら喜びや楽しみを共感し合う	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(24) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	△	△	○	○
(25) 友達のように気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(26) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	×	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	△	○	○
(27) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(28) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(29) 友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(30) 共同の道具や用具を大切にし、みんなで使う	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(31) 高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人々に親しみをもつ				○						△				○
(32) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする		△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(35) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
(36) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	×	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(37) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(38) 親しみをもって日常のあいさつをする							△	○	○	○	○	○	○	○
(45) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	×	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(22) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○
(23) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	×	△	△	△	△	△	×	△	△	△	△	○	○	○
(24) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
(25) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	×	△	△	△	×	×	×	△	△	△	△	△	○	○
(26) 身近な動物や植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(27) 身近な物を大切に使う	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(28) 身近な物や道具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	○	○	○	○
(29) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	△				×	×	△	△	△	△	○	○	○	○
(30) 日常生活の中で簡単な図形や文字などに関心をもつ	△	△	△		×	△	△	△	△	△	○	○	○	○
(31) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	△	△	△		△	△	△	△	△	△	○	○	○	○
(32) 幼稚園内外の行事において困難に親しむ						△						○		
(34) したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する	△		△	△			○	○	○	○	○	○	○	○
(39) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(40) いろいろな体験を通じてイメージや言葉豊かにする			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(41) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう	△	○	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
(42) 生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう	△	△	△	△	×	×	△	△	○	○	○	○	○	○
(43) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんでたりする	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	○	○
(44) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○
(46) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	○	○	○	○
(47) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	△			△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(48) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○
(49) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする	○	△	△	△	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○
(50) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう	△	△	△	△	△	△	×	△	△		○	△	○	○

表4-1 3年保育3歳児「幼稚園教育要領の内容50項目」時期割り振り表

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
1				△							
2					△						
3				△							
4					△						
5							△				
6		△									
7							△				
8							△				
9							△				
10		△									
11		△									
12		△									
13							△				
14							△				
15							△				
16											
17		△									
18							△				
19					△						
20							△				
21							△				
22							△				
23							△				
24							△				
25							△				
26		△									
27		△									
28							△				
29							△				
30							△				
31							△				
32											
33				△							
34		△									
35		△									
36							△				
37				△							
38		△									
39							△				
40							△				
41		△									
42							△				
43					△						
44					△						
45							△				
46							△				
47							△				
48		△									
49					△						
50							△				

豊かな学びと発達段階ごとの姿(発達課題)

「自己」との対話



「対象」との対話

幼小一貫した「学び」としておいている「豊かな学び」は、「他者」「対象」「自己」との対話という3つの構成要件からなります。

それぞれの対話の姿は発達段階に従って発展していきます。発達段階ごとに発展する対話の姿を「発達課題」(右表)と呼んでいます。

発達課題は、いつでも存在します。従って、たとえどんな遊びや授業の中でも、望ましい学習者に必要な資質である「豊かな学び」が育つように、幼も小も同じ意識で常に育てていくことが大切なのです。

表C - 1 本校園が設定した発達課題

発達段階	他者との対話	対象との対話	自己との対話
期 幼稚園 3歳児	自分の思いをできるだけ言葉にしなが、相手と同じ場で遊ぶことができる。	身の回りにあるものに興味・関心をもち、自分から触ったり、動かしたりするを通して対象とかかわるおもしろさを感じることができる。	したことをその場でほめられることで、楽しかったことやがんばったことに気づいたり、喜びを感じたりすることができる。
期 幼稚園 4～5歳児 前半	自分の思いを相手に伝えながら、相手と共通のイメージをもって遊ぶことができる。	自分の興味・関心から動かす、触れるなどして対象にかかわり、対象のもつおもしろさを感覚的に感じ取ることができる。	したことについて視点を与えられることで、楽しかったことやがんばったことに気づいたり、喜びを感じたりすることができる。
期 幼稚園 5歳児後半 ～ 1年生	相手の気持ちや考えを聞いたり自分の気持ちや考えを相手に伝えたりして、相手に合わせながら一緒に活動することができる。	自分の興味・関心から触れる・観る・試すなどしながら試行錯誤的に対象にかかわり、対象のもつ特徴をおもしろさとして感じ取ることができる。	今した活動の成果を振り返り、楽しかったことやがんばったこと、工夫したことなどに気づいたり、できたことへの満足感を感じたりすることができる。
期 2～4年生	相手の立場に立ち相手の気持ちや考えを自分のものとして聞いたり自分の気持ちや考えを分かりやすく伝えたりして、相手と力を合わせながら活動することができる。	自分の見通しに沿って比べる・調べる・つくるなどしながら目的に対象にかかわり、対象の特徴を主観的に感じ取ることができる。	学習への取り組みやその成果を振り返り、まだはつきりしないことやよりよくなりたいことを次の課題として導きだしたり、自分が他者にどうかかわったかを考えたりすることができる。
期 5～6年生	お互いの考えや気持ちの類似点・相違点を折り合わせたりまとめたりして、相手と共有する願いの実現に向けて相手を尊重しながら活動することができる。	自分の見通しが達成できるように学習の方法や進め方を選択しながら論理的に対象にかかわり、対象の特徴を客観的、多面的に感じ取ることができる。	学習への取り組みやその成果、友だちとのかかわりを振り返り、次の課題を導き出すと共に最も合理的な追求方法を探したり、これから自分は他者にどうかかわっていけばよいかを考えたりすることができる。

学ぶ内容のつながりは？ その1

学ぶ内容についても、3歳から12歳まで、それぞれの時期の子どもに最適な形、最適な水準で触れさせていく必要があります。そこで、発達段階の各期毎に培いたい内容を整理するとともに、そのつながりを考えていくことにしました。

まず、期・期の子どもには「9つの要素」を培うようにすることにしました。要素が培われると、身の回りにある事物や現象、習慣、対人関係などに触れることのおもしろさに気づき、「またしてみたいな」という触れることへの興味・関心をもつようになります。

期の子どもには「10の価値」を培うようにしました。知的な認識や感性などの水準が高くなる期の子どもは、事物や現象への気づきや、気づきを元にした興味・関心の程度が、期・期の子どもと比べずっと高くなっています。そのため、価値が培われると、単に事物や現象に触れることのおもしろさに気づくのではなく、事物や現象の特徴を、おもしろさ・不思議さ・便利さとして感じ取るようになります。そして、感じ取った事物や現象の特徴を生かしながら、その事物や現象に取り組んでいきたいという興味・関心をもつことができるようになるのです。

触れることのおもしろさへの気づき

事物や現象の特徴への気づき

共通点・差異点を調べる。
「類」として事物・現象をとらえる。

要素「自然事象」

このむしさん、かわいいな。
よしよししたいな。
また明日、幼稚園にきたら、
なでなでしてあげたいな。
(期 4歳児の例)

価値「自然」

バッタはこのはっぱしか食べないんだよ。ふしぎでしょ。
だから、このはっぱを探してきてあげて、虫のおうちの中に入れてあげようと思ってるんだ。
(期 5歳児の例)

教科等で培いたいもの

科学的な見方や考え方

虫の体を、境目のあるところに目をつけて見ていくよ。
1匹1匹比べていって、体のつくりが同じものを仲間としてまとめるよ。
どの虫も、頭、胸、腹に分かれているよ。しかも、胸から足が6本必ずついているよ。
(期 3年生の例)

触れることへの興味・関心

感じ取った事物や現象への気づきを
生かした取り組みへの興味・関心

このように、3歳から要素、価値と培ってきた子どもは、教科等で培いたい認識・態度・判断力・知識・技能などを、むりなく身につけていくことができます。

図1 自然に関する要素・価値・教科等で培いたいものつながりの例

学ぶ内容のつながりは？その2

期・期(3歳児～5歳児前半)の要素から、期(5歳児前半～1年生)の価値へのつながりの表です。

2年生以降の各教科等の培いたいもの

要素	内容
生活習慣	衣服の始末、食事、排泄、片付け、健康や安全などに気をつけることの大切さに気づき、また自分でしようとする興味・関心をもつこと。
運動遊び	十分に体を動かす楽しさや、戸外で活動することの心地よさを感じ、また体を動かして遊んだり、戸外で遊んだりしてみたいという興味・関心をもつこと。
仲間意識	自分の生活に関係のある人と一緒に活動することの楽しさや、困っている友だちに声をかけたり手助けをしたりすることの気持ちよさを感じ、また一緒に活動したり友だちに優しく接したりしようとする興味・関心をもつこと。
規範	言っではいけないことやしてはいけないことがあること、きまりを守ることなどの大切さに気づき、また集団で生活する上でのきまりを守ろうとする興味・関心をもつこと。
コミュニケーション	自分の思いを相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりすることの大切さに気づき、また言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりしようとする興味・関心をもつこと。
自然事象	自然現象や自然物を見たり触れたりすることのおもしろさに気づき、またそれらを見たり触れたりしようとする興味・関心をもつこと。 飼育している動植物の世話を最後までしたり、優しく扱ったりすることの大切さに気づき、最後まで世話をしたり優しく扱ったりしようとする興味・関心をもつこと。
社会事象	遊戯室、保健室、絵本コーナーなどの園内のいろいろな場所や公園などに行ったり、標識や表示、幼稚園で起きた出来事を見たり聞いたりすることのおもしろさに気づき、また行ったり使ったりしようとする興味・関心をもつこと。
表現活動	音・動き・言葉などで自分なりに表現したり演じたりする、いろいろな色・形・材質に親しみ描いたり作ったりすることのおもしろさに気づき、また表現してみようとする興味・関心をもつこと。自分や人が表しているもの大切さに気づき、それらを大切に扱おうとする興味・関心をもつこと。
数量	人やもののかずを数えたり、かずや量の違いを比べたりすることのおもしろさに気づき、またかずを数えたりかずや量の違いを比べたりしてみようとする興味・関心をもつこと。

価値	内容
生活習慣	健康・安全・清潔に気をつけること、衣服の着脱・食事・片づけ・手伝いがきちんとできることをうれしいこと・気持ちよいこととして感じ取り、また自分でできることを増やしたり人の役にたつ手伝いをすすんでしたりしていきたいという興味・関心をもつこと。
運動遊び	ルールを変えたり用具を変えたりすると、遊びの様子が変化することをおもしろさとして感じ取り、またルールや用具を変えて体を動かして遊んでみたいという興味・関心をもつこと。
社会性	クラスの友だちや異年齢の友だちのことを考えて一緒に遊ぶと楽しいことを大切なこととして感じ取り、また友だちやいろいろな人など相手のことを考えて接してみたいという興味・関心をもつこと。
自然	虫によって食べるものや体の動きや固さが違うこと、植物が世話をすると生長すること、水はいろいろな物を流すことなどをおもしろいこと・不思議なこととして感じ取り、また虫にあった探し方や飼い方、植物にあった育て方をしたり、水を流したりして遊びたいという興味・関心をもつこと。
空間	校内や公園など身近な施設には何があるのかを見つけたりその場所で遊んだりして、生活空間を広げることをおもしろいこととして感じ取り、また別の公園には何があるのかを見つけたりそこでできる遊びを見つけたりしてみたいという興味・関心をもつこと。
徳性	友だちとなかよくすること、きまりを守ること、生き物にやさしくすることなどを気持ちのよいこと・大切なこととして感じ取り、また自分の生活をよくするための行為について考えてみたいという興味・関心をもつこと。
メディア	図書館で好きな本を読めることやコンピューターで絵をかけること、デジタルカメラで写真を撮れることをおもしろいこととして感じ取り、またメディアに触れたい、使いたいという興味・関心をもつこと。
言語	思いや考えをことばでうまく伝えられること、ことばのリズムを使って遊べることなどを便利なこと・おもしろいものとして感じ取り、またことばを使ってみよう、ことばを見つけたり選んだりして遊んでみたいという興味・関心をもつこと。
表現	音色、色や形の組み合わせ、身ぶり、場面の印象などをおもしろいもの、心地よいものとして感じ取り、また音を見つけたり色や形を選んだり動きをまねたり場面にふさわしいものを探したりして表してみたいという興味・関心をもつこと。
数量	順序や数量を数字や記号で表せること、数を合成・分解などして遊べること、お話を式化することなどを便利なこと・おもしろいこととして感じ取り、また数や式を使った遊びやゲームをしたりしてみたいという興味・関心をもつこと。

段階的に、しかも様々な内容に触れていくことは、幼児期においてはどのような遊びにも目が向く子どもになります。そして、後々、どのような学習も大好きな子どもになっていくと考えています。難しすぎず、いろいろなものに、子どもの様子をよく見ながら触れさせたいものです。

附属幼稚園 Active-U Map 期(5歳児後半)

附属小学校 第1学年 かけはしプラン

フィールド学習

ステージ学習

月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
---	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

ねらい 友だちの思いや考えを聞いたり、自分の思いや考えを相手に伝えたり、友だちを誘ったり呼びかけに応じたりしながら、一緒に活動することができる。(他者との対話)
 自分の興味・関心から身の回りにある環境の中や日々の暮らしの中にある事物や現象に見る・探す・選ぶなどしながら試行錯誤的にかかわり、事物や現象のもつ特徴をおもしろさ・不思議さ・便利さとして感じ取ることができる。(対象との対話)
 自分がしたことを振り返り、楽しかったことやがんばったこと、工夫したことなどに気づいたり、できたことへの自信や満足感、手応えを感じたりすることができる。(自己との対話)

自分の生活を見直そう

生：今までできなかったことにも取り組み最後まですること、当番や係の仕事と同じグループの人と最後まですることなどができたことをうれしいこととして感じ取る。
 社：友だちのことを考えて生活することを大切なこととして感じ取る。
 例：当番活動、係の仕事、歯磨き指導、排便指導、食についての指導など

青空の下で思いきり遊ぼう

運：繰り返し走る、障害物を取り入れるなど、遊び方を変えるとより楽しくなることをおもしろさとして感じ取る。
 社：友だちの頑張っている姿に気づき、励ましたり応援したりしながら遊ぶと楽しいということを大切なこととして感じ取る。
 徳：遊びに必要なルールを理解し、守って遊ぶことを大切なこととして感じ取る。
 生：体調に応じて休息をとったり、衣服を調節したりすることの大切さを感じ取る。
 例：リレー、障害物リレー、玉入れなど

みんなで力を合わせてやろう!

社：大勢の友だちと一緒に遊ぶ中で、相手の考えを聞いたり取り入れたりすることを大切なこととして感じ取る。
 運：ルールや用具を変えることで遊びがより楽しくなることをおもしろいこととして感じ取る。
 数：一対一対応せれば、どちらがどれだけ多いのかがわかるということ、便利なこととして感じ取る。
 徳：ルールを守って遊ぶことを大切なこととして感じ取る。
 例：ドッジボール、こま回し、鬼遊び、なわとび、ボールつき、一輪車、けん玉など

みんなで ごっこをしよう!

表：場面を思い浮かべながら言葉や身ぶりで表すことをおもしろいこととして感じ取る。
 表：遊びに必要な物を考え、それに適した材料を選んで作ることをおもしろいこととして感じ取る。
 言：互いの考えやイメージを言葉で伝え合うことを、おもしろいこととして感じ取る。
 社：大勢の友だちと一緒に遊びを進めていく中で、相手のことを考えて遊ぶことの大切さを感じ取る。
 徳：自分や友だちが作ったものを大事に使うことを大切なこととして感じ取る。
 例：おばけ屋敷ごっこ、店屋ごっこ、劇遊び、オペレッタ、長いお話を興味をもって聞くなど

秋いっぱい!

自：秋の自然物を探したり集めたり触れたりする中で、木の葉や実、虫の形、色、大きさ、動きなどをおもしろいこととして感じ取る。
 メ：絵本コーナーで、秋の自然物に関する絵本や図鑑を見ることをおもしろいこととして感じ取る。
 数：木の葉や木の実の数を数えたり並べたりして比べると、多少が分かることをおもしろいこととして感じ取る。
 徳：つかまえた虫を大事にすることを大切なこととして感じ取る。
 例：園外保育(幣立山、操山、吉備の中山、手振り)、一年生との交流(秋をプレゼントしよう)、木の葉や木の実を集める、どんぐりごまや落ち葉のこすりだしをする、旭東幼と虫とりに行く、虫かごを作る、キウイの収穫など

数や文字を使った遊びをしよう!

数：数を数えたり、合わせたりすることをおもしろいこととして感じ取る。
 言：言葉を使って遊ぶことや、文字を使って遊ぶことをおもしろいこととして感じ取る。
 社：友だちの思いを聞きながら一緒に遊ぶことを大切なこととして感じ取る。
 例：かるた、すごろく、カードゲーム、トランプ

いろいろな材料が使えるようになったよ

表：色や柄の組み合わせを考えながら作ることをおもしろいこととして感じ取る。
 社：友だちと一緒に難しいところを手伝い合いながら作ることを大切なこととして感じ取る。
 生：自分が使った物を最後まで片付けることを気持ちよいこととして感じ取る。
 例：鬼の面を作る、ひな人形を作る、部屋飾りを作るなど

冬の自然、不思議だね

自：氷や霜ができること、雪が降ることなど冬の自然現象をおもしろいこと・不思議なこととして感じ取る。
 生：手洗い・うがいなど冬の健康な生活の仕方を知り、自分から進んですることを気持ちよいこととして感じ取る。
 例：氷作り、霜や雪を集めるなど

もうすぐ一年生!

社：年中児がわかりやすいような言葉をかけながら係の仕事の内容を教えたり、一緒に遊んだりすることをおもしろいこととして感じ取る。
 言：考えたことを相手に分かるように言葉で伝えることを便利なこととして感じ取る。
 例：係の仕事引き継ぎ、作品の整理、お別れ会、卒業式など

小学校ってどんなところ?

社：一年生と一緒に遊んだり、学校のことを教えてもらったり小学校の先生と一緒に遊ぶことをおもしろいこととして感じ取る。
 空：小学校の施設や物で遊ぶことをおもしろいこととして感じ取る。
 例：小学校探検、給食を食べるなど

言：くねくね道かみなり道ができちゃった

社：よろしく附小のお兄さんお姉さん

表：いらっしやいませ! すてきなレストラン

徳：気持ちのよいあいさつをしよう

表：ぐちゃぐちゃどろどろ楽しいな

自：水で遊ぼう

徳：みんなで場所でのきまりって

言：会話文の入った文を書こう

運：みんなでやろう的当て遊び

数：たしざんのおはなし

徳：友だちにやさしくしよう

表：ぐるぐる

社：むかしの遊びをしよう

徳：めあてに向かって努力する

言：しりとり遊びをしよう

言：くっつき「は」「を」「へ」で遊ぼう

言：こっちにもひらがなあっちにもひらがな

社：よろしくクラスのお友だち

数：どちらがおおい

数：ふえるおはなし

数：ながさくらべ

表：ぼくら少年海賊団

徳：みんなとなかよくしよう

運：プールで遊ぼう

言：鼻のひみつがわかる本を読もう

言：かけ声のおもしろい本を読もう「おおきなかぶ」

数：へるおはなし

運：みんなで遊ぼう

表：地面にいっぱいいちやった

徳：よいとおもったことを進んでしよう

言：たねのひみつがわかる本を読もう

運：野山で遊ぼう

言：こころがドキン詩の名人

表：木の劇をつくらう

運：体育館で遊ぼう

徳：ものを大切にしよう

言：ぼくたちあそび博士

数：おおきなかず2

運：さむさをふきとばせ

数：ひきざんのおはなし

表：ならべちゃおうつんじゃおう

徳：わがままな気持ちをがまんする

言：ことばワールドであそぼう

言：みんな音読名人

社：新しい1年生を迎えよう

表：リズムのってダンスパーティー

徳：人にやさしく

数：なんばんめ

社：みんなで気持ちよくすごそう

徳：安全に気をつけよう

社：じゃがいもパーティーをしよう

言：したことが書けるよ

言：あっちにもカタカナこっちにもカタカナ

空：学校を探検しよう?

言：あっちにも漢字こっちにも漢字

メ：コンピュータを使おう

社：秋をプレゼントしよう

言：気持ちを伝えよう

言：まっすぐに書けるかな

社：年の終わりを楽しもう

表：つるして遊ぼう

空：①探検しよう西川アイブラザ

徳：みんなが使うものが使ったときには

言：お話を聞こう本を読もう

言：ぶんぶんぶんがつくれるよ

空：探検しよう! 附属小学校

メ：学校図書館を使おう

メ：学校図書館を使おう

言：広がれ! 音や動きを表す便利なことば

数：大きな数

自：虫さんとお友だちになろう

表：あつまれいろいろな動物たち

徳：動植物にやさしくしよう

メ：デジタルカメラを使っちゃおう

言：外国の言葉たくさんあるよ

社：②みんな2年生になろう

メ：コンピュータを使おう2

表：色水すいすい絵の具ですらすら

自：お花をさかそう

徳：動植物にやさしくしよう

空：学校の周りを探検しよう?

徳：みんなが使うものを大切にしよう